D－1　地域活動総合支援センター

所 在 地	新潟県東蒲原郡阿賀町津川
事業主体	阿賀町
構　　造	木造平屋建て
延床面積	624.38m2
竣工年度	平成22年度

木材利用量	181.09m3
うち県産材	180.15m3
使用樹種	県産スギ、米マツ
設　　計	西興産㈱
施　　工	㈲丸山建築設計事務所

◆　施設の概要

障害者や児童、地域住民の交流の場として利用する施設。そのため、木造で整備するとともに床・壁等の木質化を図り、利用者が安心・安全に利用できる施設としている。

◆　工法等の特徴

強度が必要な箇所についても可能な限り県産材を使用、ほぼ100%県産材を利用して建設した。

◆　整備にあたり工夫したこと

地域住民等へ県産材活用の先駆・シンボル的施設として施設を開放することから、梁をあらわしにして木材の良さを視覚に訴えられるようにした。

◆　利用者の声

「落ち着いた雰囲気で作業がし易い。」
「木造部分が多いので暖かい感じがする。」

D－2　きのと交流館

所 在 地	新潟県胎内市乙
事業主体	胎内市
構　　造	木造平屋建て
延床面積	814.85m2
竣工年月	平成27年３月

木材利用量	333.1m3
うち県産材	286.9m3
使用樹種	県産スギ、国産ヒノキ、カラマツ、米マツ
設　　計	㈲富永設計
施　　工	小野組・桐生建設特定共同企業体

◆施設の概要

胎内市乙地区住民と地区外住民の交流を促進し、住民の福祉と健康増進、文化教養の学習の場と、併せて災害時における防災機能を有する施設として建設を行った。県産スギ材を主体とする地域材を構造材及び仕上げ材に利用し、地域の自然と調和した木のぬくもりと暖かさのある施設となっている。

◆工法等の特徴

県産材を活用すると共に特殊なトラス構造形式は避け、地域の施工業者が習熟している在来工法とした。長スパンの部分には国産カラマツLVLを採用している。

◆整備にあたり工夫したこと

地域産材を活用した木造建築である事をよりアピールできるように、乙地区の景観に配慮した伝統的な木造建築の外観とした。

◆利用者の声

「乙地区の雰囲気に合った、木の暖かみのある建物に感じられます。」

Ｄ－３　ホッと情報館「陽だまり」

所 在 地	新潟県出雲崎町大字大門
事業主体	出雲崎町
構　　造	木造２階建て
延床面積	127.52m2
竣工年月	平成27年３月

木材利用量	34.1m3
うち県産材	28.28m3
使用樹種	県産スギ、米マツ等
活用事業	Ｈ26 森林整備加速化・林業再生事業
設　　計	㈱タキザワ設計
施　　工	ダイエープロビス㈱

◆工法等の特徴

在来軸組構法で構造材のうち梁には地元出雲崎産の杉を使用した集成材を、柱には県産スギの無垢材を利用している。

２階オープンスペースの天井は梁材をあらわしたものなっており、そのダイナミックさを体験できる空間となっている。

◆整備にあたり工夫したこと

地域拠点となるこの施設は、出雲崎町の特徴である北国街道妻入りの街並みをイメージした外観とするため、外壁材に地元杉を使用して、誰もが親しみやすく、利用しやすい雰囲気作りとした。杉材の柔らかさ暖かさを手で触って体験出来るように、内壁にも地元杉をふんだんに使用し、家の中に居るような落ち着いた雰囲気にした。また内壁材には指紋などが付かないよう保護塗料を塗り維持管理上の工夫をしている。

◆利用者の声

「入館して、木の香りや、畳の香りもありホッとするような感じを再認識した。」
「杉の香りが心地よい。良い木材を使用したこの建物は素晴らしい。」
「もっとPRして多くの人が利用したら木材の有効利用と地域の活性化につながると思う。」
「子育て住宅や空き家の改修などにも出雲崎産を利用して、木材のPRを進めてほしい。」
などの声が寄せられている。

D－4　市振支館

所 在 地	新潟県糸魚川市大字市振
事業主体	糸魚川市
構　　造	木造平屋建て
延床面積	232m2
竣工年月	平成28年１月

木材利用量	61.1m3
うち県産材	40.9m3
使用樹種	県産スギ、国産ヒノキ、米マツ
設　　計	アジュール設計室
施　　工	㈱山岸組

◆施設の概要

市振地区住民と地区外住民の交流を促進し、住民の福祉と健康増進、文化教養の学習の場と、併せて災害時における防災機能を有する施設として建設を行った。「地域材を地域で利用する」ことを意識し、県産スギ材を主体とする地域材を構造材及び仕上げ材に利用し、地域の自然と調和した木のぬくもりと暖かさのある施設となっている。

◆工法等の特徴

地域で流通している県産材をより多く活用出来るように、柱のスパンを調整（最長3.6m）し、柱材はもとより梁材にも地域スギ材を積極的に利用している。

◆整備にあたり工夫したこと

設計委託の段階から、市や木材連合会・ブランド組合等関係団体と協議を重ね、地域に流通し、在庫量の多い規格を使用することで、より多くの地域材が使える工夫をした。

◆利用者の声

「地区の景観になじみ、木の暖かみを感じられる。」

Ｄ－５　ラポルテ五泉

所 在 地	新潟県五泉市赤海８６３番地
事業主体	五泉市
構　　造	木造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造３階建て
延床面積	3,744m2
竣工年度	令和３年度

木材利用量		518.6m3
うち県産材		250.2m3（構造、内装）
使用樹種		スギ（五泉市産）等
施工	建築工事	横山・山隆複合施設建設工事特定共同企業体
	電気設備	ユアテック・デンコー複合施設建設工事特定共同企業体

四方に深く庇を延ばし大屋根をかけた外観

五泉市産杉をふんだんに使用した解放感あるガレリア

◆施設の概要

五泉市の「にぎわい」と「憩い」をコンセプトとした新たな交流拠点として、「ラポルテ五泉」をオープンした。

施設内は、五百席の多目的ホールを備えた生涯学習エリアのほかに、地元の特産物を販売する産直ショップや軽食を提供するカフェテリアがある産業振興エリア、子ども向けの屋内遊具などを設ける共用エリアに分かれており、さまざまな機能を併せ持つ複合施設として五泉市の新たな地域活性化の拠点として新設された。

◆県産材・県産品利用について

ラポルテ五泉は、木造建築をいかした遊具を備える「子どもの遊び場」や木質で居心地のよい「多目的ホール」、五泉産木材をふんだんに使用した解放感あるロビー空間など、木のぬくもりを感じられることが特徴の建物であり、来館者の憩いの空間となっている。

◆整備にあたり工夫したこと

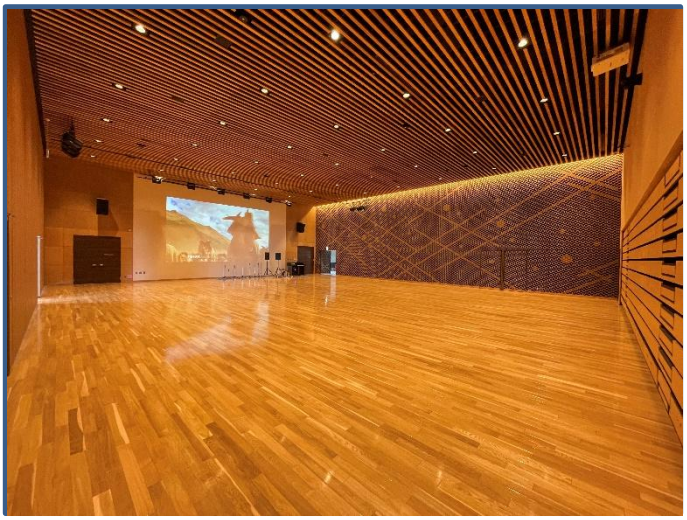
地域材をいかした建物を造ることで地場産業の発展に寄与し、建物自体が地場産業の展示場となるような施設とする必要があった。そのため、構造材や天井材など来館者の目に触れる材木すべてに五泉市産材を使用することで、その目的を達成した。

Ｄ－６　栃尾地域交流拠点施設トチオーレ

所 在 地	新潟県長岡市中央公園１番67号
事業主体	長岡市
構　　造	ＲＣ造、一部ＰＣ造、Ｓ造２階建て
延床面積	4,271m2
竣工年月	令和４年３月

木材利用量	40.2m3
うち県産材	19m3（内装）
使用樹種	県産スギ
設　　計 施　　工	中越・共榮・三協・良電社栃尾地域交流拠点施設（仮称）建設特定共同企業体 ※設計・施工一括発注

地域特有の雁木空間を活かした正面のアプローチ



県産材を使用した大ホールの組子壁・ルーバー天井

◆施設の概要

老朽化した周辺公共施設を集約・再編する計画の一環として、地域交流拠点となる施設を整備した。

「多世代交流と憩いの場」、「市民活動と学びの場」をテーマに、ホールや音楽スタジオ、屋根付き広場、図書館等を備えている。

機能を集約することで、地域の魅力や利便性の向上とにぎわいの創出を図る。

また、施設の愛称「トチオーレ」は公募により決定。

◆県産材・県産品利用について

県産材は、ストリートラウンジ等のホワイエ空間や大ホールの天井を中心に使用した。

また、大ホールには栃尾地域の特産品である手まりや織物のイメージをデザインした組子壁を設置した。

◆整備にあたり工夫したこと

施設の中心となるホワイエ空間や多くの利用者が集まる諸室を中心に県産材を使用し、多くの市民が木材資源の暖かなイメージを感じられる配置となるように配慮した。

D－7　山潟コミュニティハウス

所 在 地	新潟県新潟市中央区山二ツ
事業主体	新潟市
構　　造	木造平屋建
延床面積	500㎡
竣工年月	令和6年2月

木材利用量	156.0㎥
うち県産材	81.0㎥
使用樹種	県産スギ等
活用事業	－
設　　計	新潟市建築設計協同組合
施　　工	丸運建設　株式会社

外観

内観

◆施設の概要

市内で唯一コミュニティ施設が未設置である山潟地区において、多世代にわたる地域住民の交流を推進し、地域の活性化を図るため、コミュニティハウスを整備した。

◆県産材・県産品利用について

柱、梁の構造材や垂木など、使用する木材の多くを県産スギとするとともに、内装ではルーバーに国産スギ、巾木や見切に県産スギを使用することで木の温かみのある内観とした。

◆整備にあたり工夫したこと

隣接する中学校に配慮したうえで、周辺の豊かな自然環境に調和した木のぬくもりのある明るく風通しの良い施設とした。

D－8　金谷地区公民館

所 在 地	新潟県上越市大貫
事業主体	上越市
構　　造	S造・平屋建
延床面積	683m2
竣工年月	令和7年3月

木材利用量	7.88m3
うち県産材	4.56m3
使用樹種	スギ（ホワイエ壁：上越市大島区中野産／下足箱・丸テーブル等：上越市吉川区国田産）
活用事業	－
設　　計	エーシーエ設計
施　　工	久保田・田中共同企業体（久保田建設㈱、田中産業㈱）、北陸工業㈱、㈱城東電工

外観

ホワイエ

◆施設の概要

老朽化した金谷地区公民館について、利用者の利便性の向上を図るため、「誰もが使いやすく世代を超えた人々の交流が広がること」をコンセプトに大規模な会議が可能な集会室や使いやすい調理室のほか、来館者が自由に過ごせるホワイエを新たなふれあいの場として整備した。ホワイエ壁面には、上越市産の杉を活用するとともに、太陽光パネルを設置し、地域資源や省エネルギーにも配慮した。

◆県産材・県産品利用について

ホワイエ内装に地域産材（上越市大島区中野産）を活用したほか、市民交流スペースに配置した下足箱や円テーブル、椅子、雑誌架などにも地域産材（上越市吉川区国田産）を活用した。

◆整備にあたり工夫したこと

3.68kwの太陽光発電設備の導入や来館者が自由に活用できるスペースに地域産材を活用した施設整備を行うことで、環境保護や省エネルギー対策等に取りくんだ。

D－9　魚沼市生涯学習センター
（通称：ここいら）

所 在 地	新潟県魚沼市小出島130-1
事業主体	魚沼市教育委員会事務局
構　　造	地上４階建て、鉄骨造り
延床面積	3613㎡
竣工年月	令和７年３月

木材利用量	169.2m3
うち県産材	54m3
使用樹種	県産スギ、県産ブナ
設　　計	魚沼市生涯学習センター設計共同体
施　　工	協和建設株式会社

外観

県産ブナのカウンター型テーブル、本棚

◆施設の概要

旧魚沼市小出庁舎の跡地に、図書館と公民館機能を併せ持つ「生涯学習センター」として、生涯学習の環境を整えることと賑わいの拠点となる場を創出することをコンセプトとしている。

図書館には『段状書架』を設け、視認性が良く本を探しやすくするとともに、研修室や視聴覚室ではそれぞれをつなげて利用できるようにし、市民の多様な活動に対応できる施設となっている。

◆県産材・県産品利用について

県産ブナを利用した、テーブルや椅子を配置し、段上書架にブナ合板を活用するなど、市民が触れる場所に、ふんだんに県産ブナ材を利用ている。このため、鉄骨造りではあるものの、ブナ特有の木目が、入館者の目につく施設となっている。

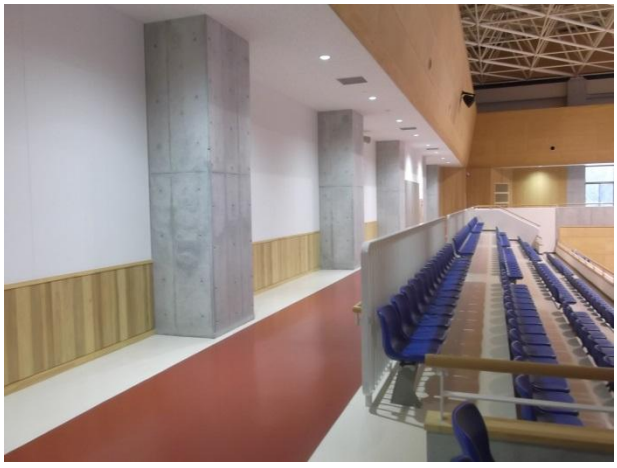
◆整備にあたり工夫したこと

魚沼市の大白川生産森林組合の雪国のブナ林を再・活用し、地域の活性化を目指す「スノービーチプロジェクト」の取組による、県産ブナをテーブルや本棚等にふんだんに活用している。

Ｅ－１　佐渡市総合体育館

所 在 地	新潟県佐渡市窪田
事業主体	佐渡市
構　　造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
延床面積	8,600m2
竣工年月	平成26年12月

木材利用量	29m3
うち県産材	10.6m3
使用樹種	佐渡市産スギ、米マツ、ケヤキ
設　　計	綜企画設計新潟支店
施　　工	本間・遠藤特定建設工事共同企業体



◆施設の概要

アリーナ、柔剣道場、軽運動場、トレーニングルーム、ランニングコース、チャイルドルームなどを兼ね備えており、市民が広く利用できる施設となっている。

◆施設の特徴

アリーナはバスケットボールコート3面で、冷暖房設備も備えており、プロや実業団の試合も開催できる施設となっている。このアリーナの腰壁に佐渡産スギ材を用いている。

また、柔剣道場の壁および扉にも佐渡産スギ材を用いており、利用者が木材の良さを実感できる施設となっている。

Ｅ－２　東赤倉テニスコートクラブハウス

所 在 地	新潟県妙高市大字田口
事業主体	妙高市
構　　造	木造２階建て
延床面積	212m2
竣工年度	平成27年度

木材利用量	72.6m3
うち県産材	55.3m3
使用樹種	県産スギ（ドライ・集成材）、妙高市産カラマツ、国産スギ、米マツ（集成材）
設　　計	㈲ミヤシタ設計
施　　工	中電産業㈱

◆施設の概要

妙高市は古くからのリゾート地として知られ、冬場はスキー、夏場はテニスやトレッキングなど多くの人が訪れる地域である。当施設は自然豊かな景観と調和したログハウス調の作りとなっており、2階のルーフバルコニーからは雄大な妙高山が一望できる抜群のロケーションである。

◆工法等の特徴

外壁部には県産杉半丸太材を使用し、通し柱には越後杉集成材を使用するなど、可能な限り県産材を利用できるよう工夫を行い、総木材利用量に占める県産材の割合は76%となっている。また強度が必要な梁・桁についても国産杉とベイマツのハイブリッド集成材を採用した。

◆整備にあたり工夫したこと

県外産材が主流である土台部分において、妙高市産のカラマツ材を使用した。妙高市内のカラマツ林分は利用段階にあるため、今回の事例を契機に全県への展開が期待できる。

◆利用者の声

「木のぬくもりが感じられ、落ち着いて休憩できる」と好評である。

Ｅ－３　池の平スポーツ広場クラブハウス

所 在 地	新潟県妙高市大字関川
事業主体	妙高市
構　　造	木造２階建て
延床面積	528.3m2
竣工年度	平成29年度

木材利用量	151.8m3
うち県産材	140m3
使用樹種	県産スギ、県産カラマツ等
設　　計	㈱上越建築設計事務所
施　　工	和信・星野特定共同企業体

◆施設の概要

平成30年2月に開催された第73回国民体育大会冬季大会「にいがた妙高はね馬国体」のクロスカントリー競技の記録計側室、放送室及び選手控え室として、林野庁の補助事業（森林整備加速化・林業再生基金事業（木造公共施設等整備））を活用して建設。

国体終了後は、スポーツ広場を夏季は長距離トレーニング、冬季は常設のクロスカントリーコースとして市内外の競技者へ開放し、本施設を休憩等のクラブハウスとして利用している。

◆工法等の特徴

近年の新技術であるCLT（直交集成板）を2階床材に使用（県産杉材使用）。

柱や梁・桁等には県産杉材、土台には妙高市産のカラマツ材を使用し、可能な限り県産材を活用した。

◆整備にあたり工夫したこと

CLTを床材に使用したことで、高い強度があるうえに、工期の短縮も図ることができた。

床に使用したCLTは、そのまま現しとしており、杉の柔らかい温かみを感じられるよう工夫されている。

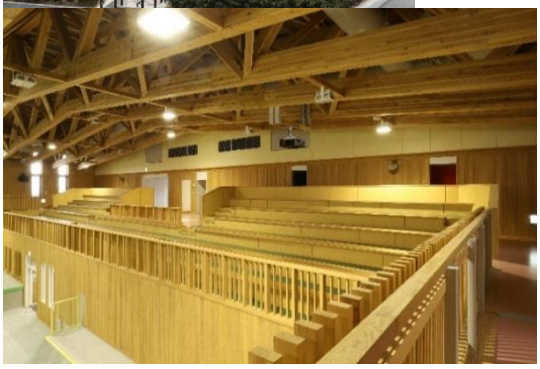
◆利用者の声

素足での利用であるが、木の温かみを感じられると好評である。

Ｅ－４　村上市スケートパーク

所 在 地	新潟県村上市瀬波温泉
事業主体	村上市
構　　造	木造、一部鉄筋コンクリート造　２階建て
延床面積	2669.8m2
竣工年度	令和元年度

木材利用量	1,223.4m3
うち県産材	931m3
使用樹種	村上市産スギ
活用事業	スポーツ振興くじ助成金
設　　計	㈱新日本コンサルタント新潟営業所
施　　工	内山・水倉・大進特定共同企業体



◆施設の概要

村上市スケートパークは、スケートボードが東京オリンピックから正式種目に採用されて注目を集める中、「スケートボードの聖地・むらかみ」を目指して整備されたスケートボード施設。通年型屋内施設として国内最大規模であり、村上市はこの施設を拠点として、世界を目指すジュニア選手の育成・発掘や市民の新たなスポーツ施策の構築を目指すとともに、地域の観光資源や魅力と結びつけながら、スポーツを通じた地域経済の活性化を目指している。

◆工法等の特徴

村上市の主要産業である林業をPRする建築とするため、柱、梁、トラスなどの構造材や内装材に市産材をふんだんに使用しているほか、外壁や間仕切り壁にはCLTを採用している。

また、耐震構造上のバランスを考慮して南北約65m、東西30mの長方形による整形な形状とし、小屋組みにトラス構造を採用することにより、木造であっても30mの大スパン空間を実現している。

◆整備にあたり工夫したこと

アリーナは、オリンピック種目の「ストリート」と「パーク」の２つの競技に対応し、アメリカの指導者からアドバイスを受けながら、国際競技水準の規模・難度を有する施設となっている。

また、スケートボードだけでなく、ボルダリングやスラックラインのほか、ランニングコースやトレーニングマシーンも設置しており、多くの利用者ニーズに対応できるようにしている。

◆利用者の声

「木のぬくもりが感じられる」「木のいい香りがする」「屋内なので天候を気にせず利用できてうれしい」と好評であり、県外からも利用者が訪れている。

Ｆ－１　かのせ温泉　赤崎荘

所 在 地	新潟県東蒲原郡阿賀町鹿瀬
事業主体	阿賀町
構　　造	木造２階建て
延床面積	475m2（木質改修箇所）
竣工年度	平成22年度

木材利用量	10.01m3
うち県産材	10.01m3
使用樹種	阿賀町産スギ
設　　計	㈱真建築研究所
施　　工	田部鉄工エンジニアリング㈱

◆　施設の概要

赤崎荘は、角神湖畔「青少年旅行村（日帰り温泉・キャンプ場・林間広場・遊歩道等）」で唯一宿泊できる施設として、旅行村の中心的施設として年間2万人（旅行村全体では10万人弱）以上の町内外の人に利用されている。

また、豊かな自然とマッチした木質外装の施設は都市部の人からも好評で日帰り・宿泊を問わず利用されている。

◆　工法等の特徴

改修前は館内の内壁はクロス張りで、床も合板フローリング仕様であったが、多くの来館者から越後杉ブランド材を見てもらうために、フロントからロビー、食堂、渡り廊下、浴室に至るまで、スギ腰板、スギ床板で内装木質化を行った。

◆　整備にあたり工夫したこと

営業施設であるため、施工を冬期間に完了する必要があり、工期の制約があった。木材の乾燥、腰板の準不燃加工など日数がかかるため、工期を短縮するため既存の床板を活かし、上から重ねる施工法を選択した。

また、場所によりスギ材に着色保護塗料を使うなど工夫し、内装が単調にならないよう雰囲気づくりにも配慮した。

◆　利用者の声

「木目がきれい」と好評。

・県外からのお客様からは、「何の木」か、と質問され注目されている。

Ｆ－２　津川温泉　清川高原保養センター

所 在 地	新潟県東蒲原郡阿賀町京ノ瀬
事業主体	阿賀町
構　　造	木造２階建て
延床面積	490.7m2（木質改修箇所）
竣工年度	平成26年度

木材利用量	20.86m3
うち県産材	20.86m3
使用樹種	阿賀町産スギ
設　　計	造建築工房
施　　工	㈱新栄建設

木製サッシ

◆　施設の概要

清川高原保養センターは、広葉樹に囲まれた温泉施設で、ツルツルした泉質から多くの人から親しまれ、町内外から年間6万人近くの利用者がある。

施設は大きく3つに分けられ、日帰り温泉棟（1号館）と宿泊施設棟（2号館）、浴室棟があり、渡り廊下でつながっている。

◆　工法等の特徴

改修前は館内の内壁はクロス張り部が多く旧保養所的な雰囲気があり、また窓サッシもアルミ製で断熱効果が低いものであった。

改修工事では、1号館から2号館までの渡り廊下を中心に床・腰板はもちろんのこと建具等にも地元産スギを積極的に使用した。

窓サッシに関しては町内公共施設では初めての木製サッシを導入した。

◆　整備にあたり工夫したこと

休憩所として利用される「大広間」を県内産スギ合板を使用してバリアフリー化して安心安全の温泉施設とした。

◆　利用者の声

・以前から利用されているお客様からは、「床が柔らかい雰囲気になり、扉などの建具も自然な色合いで明るくなった」と好評である。

・木製サッシは、「寒さを感じない」との意見があった。

Ｇ－１　トキふれあいプラザ体験学習棟

所 在 地	新潟県佐渡市新穂長畝
事業主体	佐渡市
構　　造	木造２階建て
延床面積	84m2
竣工年度	平成25年度

木材利用量	31m3
うち県産材	30.5m3
使用樹種	県産スギ
設　　計	㈱グリーンシグマ
施　　工	遠藤建設㈱

◆施設の概要

トキの森公園内にある「トキふれあいプラザ」は大型飼育ケージがあり、自然に近いトキの生態を間近に観察できる施設である。

◆施設の特徴

構造や内装の壁に県内（佐渡産）のスギ材を利用し、自然素材の温かみを感じるものとしている。

外観も自然色を基調とした木材で仕上げ、景観になじむ配色としている。

ケージ内にはビオトープの棚田が再現され、飛翔や採餌の状況などを観察することができる。

飼育ケージへの窓にはマジックミラーを用いて、トキから見えないようになっており、「トキまで、２センチ!?」と間近にトキを見ることができる。

Ｇ－２　自然体験施設（牡蠣・マリンスポーツ）

所 在 地	佐渡市原黒730-3他
事業主体	個人
構　　造	木造2階建て
延床面積	213.82m2
竣工年月	令和5年3月8日

木材利用量	12.41m3
うち県産材	12.41m3
使用樹種	佐渡産アテビ、スギ
活用事業	R4ふるさと新潟木づかい事業
設　　計	吉井木材工業（株）
施　　工	吉井木材工業（株）

外観

佐渡産アテビウッドデッキから望む加茂湖

◆施設の概要

加茂湖畔の立地条件を生かして、幅広い方々から県内最大の湖「加茂湖」の景色を楽しんでもらえるウッドデッキ及び木質外装を整備した。

◆県産材・県産品利用について

メインのウッドデッキ材には、佐渡市の木「アテビ」を使用し、周囲との景色の調和や木の香りを意識した構造とした。

◆整備にあたり工夫したこと

使用した木材は全て佐渡島内で調達することにこだわり、素材生産から製材、建築までの全ての工程を島内関係者で行うことで、島内の森林資源の地域内循環を図った。

Ｈ－１　道の駅南魚沼「雪あかり」

所 在 地	新潟県南魚沼市
事業主体	南魚沼市
構　　造	木造平屋建て
延床面積	612.99m2
竣工年月	平成24年３月

木材利用量	202.4m3
うち県産材	198m3
使用樹種	県産スギ、国産ヒノキ
設　　計	㈱冨所設計
施　　工	㈱笛田組

◆施設の概要

地域の農産物・特産品の直売施設を主とし、「道の駅」の休憩機能・情報発信機能等を担うとともに、農商工観光連携の6次産業化推進の基点となる施設として建設された。雪国ならではの「食・美術・歴史・自然」をテーマに、直売所では一年を通して地域の農産物・特産品が購入でき、休憩交流施設では展覧会を定期的に開催している。

◆工法等の特徴

直売所については、スギ大断面集成材による大断面木造とし、休憩交流施設およびトイレについては、特殊なトラス構造形式等は避け、地域の施工業者が習熟している在来軸組構法とした。

◆整備にあたり工夫したこと

施設のデザインは「周辺環境・既存施設との調和」「風土気候に馴染むもの」等を方針に県産材を積極的に使用し、木造建築物の魅力がアピールできるよう外観は和風造りとし、雪国特有の雁木通りを造ることにより、この地域の伝統的な木造建築物とした。

◆利用者の声

直売所では、天井が湾曲になっているため広く透き通る光が差し込み、快適に利用できると評判である。さらに、木が持つ優しい香り、温もりがある空間は、長旅の癒しの場となり、遠方の利用者から好評をいただいている。休憩交流棟も同様に光が差し込む構造になっているため、心地よい空間で休憩することができると聞いている。

Ⅰ－1　胎内市美術館

所 在 地	新潟県胎内市下赤谷
事業主体	胎内市
構　　造	木造平屋建て
延床面積	455.7m2
竣工年月	平成28年４月

木材利用量	188.1m3
うち県産材	184.5m3
使用樹種	県産スギ、国産スギ
設　　計	㈱ナカノ設計
施　　工	小野組・曳栄建設特定共同企業体

◆施設の概要

樽ヶ橋エリアは古くから景勝地としてしられ、胎内市美術館はその拠点施設として、美術工芸品の展示や地域の芸術文化振興、地域住民の福祉と健康増進の場として建設された。構造材及び造作材は胎内市産スギを主体に使用し、地域の自然と調和した木のぬくもりのある文化交流施設となっている。

◆工法等の特徴

特殊な構造を採用せず、木造平屋建ての従来構法により施工して地域材を多く使用する構造とした。

◆整備にあたり工夫したこと

地域産材を活用した木造建築である事をよりアピールできるように、談話室は吹き抜けにして太い梁を強調し、外観は伝統的な木造建築とし、さらに、しっくい壁により自然公園の景観に調和した構造とした。

◆利用者の声

「木の香りとぬくもりが伝わってきて、とても落ち着きます。」
「梁と柱がすばらしい。」